

2021年度第3四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時 : 2022年2月10日（木）16時00分～17時00分  
当社出席者 : 取締役 古川敏之、取締役 大治良高

主な質疑応答 :

【全体】

Q) 今後発表される新中期経営計画について、どこにフォーカスする考えか。

A) 時計事業は、スマートウォッチの台頭などの環境変化を考えると、ボリュームを狙うよりも付加価値の高い製品をどれだけ提供できるかということに軸足を置くことになるだろう。

工作機械事業は、幅広い用途を手掛けており、構成比の高い自動車向けの他、医療関連にも強みがあるが、他の領域にも展開していきたい。現在、能力増強を進めている中国市場や、インド市場も期待できる。

【時計事業】

Q) 北米市場の好調の要因について。

A) 特に高単価製品の伸長による単価上昇が寄与している。宝飾チェーンではより高単価の製品が好調であるほか、直販ECでも高単価製品が購入される傾向が強く、こちらも単価上昇に寄与。機械式時計は国内市場で先行して投入し、好調。今後北米市場も含め伸ばしていきたい。

Q) サプライチェーンの混乱は起きていないか。

A) 時計の生産において大きな問題は起きていない。一部で部品の納期が延びているものもあり、事前の予想精度を上げたり、サプライヤーとのコミュニケーションを取りながら販売につなげていきたい。

Q) 2021年度第4四半期以降の見通しについて。

A) 地域ごとに濃淡がある状況。北米市場はある程度好調を維持する見通し。国内市場は緊急事態宣言解除後、11月以降は上向いていたが、1月中旬以降はオミクロン株の感染拡大を受け、下振れリスクを考慮。欧州市場は感染拡大の状況がありながら確実に回復している。中国市場は消費マインド低下への懸念等もあり、慎重に見なければならぬ。

【工作機械事業】

- Q) 2021 年度第 4 四半期見通しに、部品不足の影響を織り込んでいるのか。
- A) さらに調達が遅れている部品も出てきており、部材入手について見通しづらい状況。第 2 四半期時点の見通しを大きく変えていない。
- Q) 生産キャパシティの増加について。効果発現のタイミングはいつ頃か。
- A) 2022 年度は中国工場の移転・拡張分が上乗せとなるが、タイ、国内本社工場を含めた増産に向けた体制が整うのは 2023 年ごろとなる見込み。工作機械市場の次の上昇ピーク前までに生産キャパシティを上げていくことを目指しており、中長期的な視点で増産に向けた投資を進めている。

以 上